清新二中だより

本校教育目標
１　豊かな心で、互いに敬愛できる人　(敬愛)
２　進んで学び、深く考える人　(知性)
３　健康で明るく、自ら鍛える人　(健康)
４　責任を重んじ、勤労を尊ぶ人　(責任)
５　礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人 (礼節)

けやき祭　－笑顔・合唱・青春あり　そして涙も－

校長　白　石　亨

「声が出ないんです」と言う生徒がいた。

１０月中旬の朝、けやき祭の合唱練習が行われていたので、各クラスの様子を覗きに行くと、廊下にいた女子生徒からこう言われた。どうやら風邪をひき、喉をやられてしまったらしい。思うように声が出ないという。それでも、その後、教室に向かいクラスの朝練習に合流しようとしていた。

「声が出ないんです」という言葉・・実はずい分と昔にも言われた言葉である。

自分ごとで恐縮だが、２０代の頃、担任をしていてクラスの合唱練習のとき、同じ言葉を生徒から言われた。でも生徒からの「声が出ない」との言葉が、正直、理解できなかった。当時、若かったのでしゃかりきになってクラスの生徒にハッパをかけていた。合唱の良し悪しなどは全くわからないくせに、何とか大きな声で歌ってもらいたいと思い、やたらと「まだまだ大きな声が出る」と繰り返し強く言い放っていた。大きな声を出せるかどうかはやる気の問題だと考えていたからだ。本気を出せば、誰でも大きな声を出せるはず、と思っていた。

だが、そんな自分を見兼ねてか、アドバイスをしてくれた同僚の先輩がいた。「白石先生は生まれつき大きな声が出るんですね。最初からその能力をもっている人は、自分ができるものだから誰でも頑張ればできるはず、と思いがちです」と言って笑った。「でも、なかには本当に声が出ない生徒もいるんです」と今度は一段低い声で言われてしまった。・・速く走れない生徒がいる。絵がうまく描けない生徒がいる。手先が器用でない生徒がいる。それと同じように生まれつき声が細い生徒がいる。努力しても大きな声が出ない生徒がいる。この先輩からの言葉に、ハッとさせられた。教員として甚(はなは)だ未熟だったことは言うまでもない。

声が出る生徒もいれば、出ない生徒もいる。合唱に対する生徒一人ひとりの立場や思いは実に多様なのだ。

そのような中でも清新二中生はみっちりと練習を積んで、今回「合唱コンクール」本番に臨んでくれた。

どの学年、どのクラスの歌声も素晴らしかった。歌声にメリハリがあり、素敵なハーモニーを奏でていてくれていた。合唱に関しては素人であり細かい部分での良し悪しは判断できないが、それでも練習の跡がしっかりと分かる素敵な歌声だった。またステージに立ったときの生徒全員の顔が堂々として、誇らしげな姿も嬉しかった。

そして結果発表。各学年の金賞、銀賞、銅賞が発表された。

体育館には大きな歓声が沸き上がる。また同時に落胆とも思われるどよめきも漏(も)れる。はじける笑顔と悄然(しょうぜん)とした表情とが交錯する。どのクラスも優劣の差がない内容だっただけに賞を付けること自体がはばかられた。

しばらくして、後方から泣く声が聞こえてきた。ときおり嗚咽(おえつ)も漏れ出した。

振り返ると係の生徒が大粒の涙を流していた。どうやら銀賞を獲得したものの、金賞を取れなかったことへの涙であった。どれほどまでに合唱に気持ちを込めていたのであろうか。生徒の思いを想像すると胸が熱くなった。

冒頭に述べたように風邪をひいて声が出ない生徒がいる。もともと大きな声が出ない生徒もいる。また長い期間、譜面に向き合い黙々と努力を積み重ねてきたピアノ伴奏者もいる。クラス全員の目を見つめて指揮を振り、気持ちをまとめ上げようとした指揮者もいる。様々な立場の生徒がいる。でも立場を越えて気持ちをひとつにして臨もうとするからこそ合唱には価値がある。互いの違いを理解し、補い合うからこそ意味があるのだと思う。

今回のけやき祭スローガンは「笑・唱・青～笑顔あり、合唱あり、青春あり～」だ。これに「涙あり」も付け加えてもらいたい。心底頑張り、勝利を目指して仲間と団結できた結果の涙ほど尊いものはない。そう、涙の数だけ人は強くなるのだと信じている。この先何度でも涙が流せる中学生だからこそ明るい未来が待っているのだ。